



令和7年度事業計画  
学校法人専修大学

## 目次

事業計画の策定にあたり	1
I 概要図	2
II 事業計画の運用及び予算編成の基本的な考え方	3
III 中期計画による年次施策	3
専修大学	3
1 教育力の向上	3
(1) 学士課程教育の質向上	3
(2) 新学習指導要領との接続を見据えた学士課程教育の推進	3
(3) ポストコロナ時代における新たな学びに向けた取組み	3
(4) 大学院教育の質向上	4
(5) 法科大学院教育の質向上	4
2 研究力の向上	4
(1) 競争的研究資金の獲得推進	4
(2) 競争的大型研究プロジェクトの採択推進	4
(3) 各研究所等における研究活動の活性化と知の発信	4
(4) 社会知性開発研究センターにおける研究プロジェクトの推進と国際展開	5
(5) SDGsに貢献する新たな教育研究活動への挑戦	5
3 学生生活実績の向上	5
(1) 難関国家試験等の合格者増	5
(2) 就職実績の向上	6
(3) カレッジスポーツの強化	6
石巻専修大学	6
1 石巻専修大学中長期ビジョンの推進	6
(1) 「石巻専修大学中長期ビジョン」に基づく大学改革の推進	6
2 特色ある教育研究活動の推進	7
(1) 学士課程教育の改革	7
(2) 競争的研究資金の獲得促進	7
(3) 産学官連携研究の推進	7
3 入学定員充足に向けた取組強化	7
(1) 学生募集力の強化	7
(2) 就職実績の向上	7
(3) カレッジスポーツの強化	7
(4) 修学支援の強化	8
学校法人専修大学	8
1 財務の健全性確保	8
(1) 財務の健全性確保に向けた諸施策の推進	8
2 大学運営の強化	8
(1) 大学運営の効率化に向けた諸施策の推進	8
(2) 人材育成に係る取組みの推進	9
(3) カーボンニュートラルに向けた取組み推進	9
IV 基盤強化に向けた施策	9
専修大学	9
(1) 教育活動の強化	9
(2) 学生生活のサポート	9
(3) 学生募集力の向上	9
(4) 社会的評価を高めるための広報活動等の展開	10
(5) 社会連携・社会貢献活動の推進	10
(6) 校友会・育友会との連携強化	10
石巻専修大学	10
(1) 教育研究活動の強化	10
(2) 学生支援の強化	10
(3) 社会連携・社会貢献活動の推進	10
学校法人専修大学	11
(1) 大学運営に係る諸施策の推進	11

\*1：本計画書については、第三者による無断複製・転用・公開を禁止します。



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方に基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

## 事業計画の策定にあたり

学校法人専修大学は、21世紀ビジョン「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」のもと、教育・研究活動に取り組むと共に、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に大学運営を行っています。

令和7年度までの5年間は「学校法人専修大学中期計画（2021年度～2025年度）」に基づき、教育・研究の質を高めると共に、学生の活動実績が向上するよう強化に努め、大学の存続・発展を支える財務基盤の強化に取り組むこととしています。令和7年度は当該中期計画の最終年となることから、これまでの事業の成果を検証し、抽出された課題を克服することで、計画達成に向けた具体的な進展を体現する年となります。

専修大学は、「学修者本位の教育の実現」を目指し、教学マネジメントを適切に機能させ、教育研究活動の質向上に取り組めます。学士課程教育については、未来を見据えたカリキュラム改革の一環として、令和8年度の学部・学科カリキュラム改正に向けた準備を具体的に進めると共に、新学習指導要領との接続や分野横断的な授業科目の編成、STEAM教育の導入により、学生の多角的な視野と問題解決能力の育成を目指します。学習環境の充実においては、前年度、本格的に運用が開始された、仮想デスクトップ基盤（VDI）が一層の利活用がされるように、学習環境の整備や定着化を進め学生の多様な学びを支援します。また、グローバル人材育成の強化に向けては、オンラインと海外渡航を組み合わせたハイブリッド型の留学プログラム「東南アジア・スタディツアー」をさらに拡充すると共に、単位認定を進めます。さらに、「Society 5.0」時代を見据えた人材育成として推進している「Si データサイエンス教育プログラム」の定着と一層の発展に向けて、数理・データサイエンス・AI教育を更に深化させ、データリテラシーの基礎から応用までを体系的に学べる科目編成を進めます。

研究力の向上に向けては、社会知性開発研究センターをはじめとする学内の多彩な研究所やセンターが連携することで、国際的・学際的な研究領域を拡げていきます。また、競争的研究費の獲得については、研究計画調書のピアレビュー体制や研修を充実させ、科学研究費助成事業の新規採択件数・採択率の向上を目指します。さらに、大規模な外部資金を伴う研究プロジェクトの獲得に向けて、学内の研究支援体制を整備するとともに、産学官連携に積極的に取り組みます。

学生活動実績の向上に向けては、公認会計士試験や国家公務員採用総合職試験など、難関国家試験に挑戦する学生を力強く後押しするため、課外講座や学習支援体制を拡充します。カレッジスポーツにおいては、各種スポーツの競技力及び競技実績の向上と共に、体育会学生の競技と学業との両立、さらにはキャリア支援を一体的に強化し、カレッジスポーツの価値向上を目指します。強化選手等に選出された学生への支援強化や、野球部・陸上競技部・ラグビー部については、各々が掲げる目標達成に向けた重点的な支援を行います。

石巻専修大学では、「地域に根ざして世界に尖った大学」を目指し、第2次中長期ビジョン（2025年度～2029年度）に基づく行動目標・行動計画を策定し、教育・研究・社会連携の各分野で改革を進めています。最重要課題の一つである入学定員の充足については、大学の魅力を最大限に伝える施策を強化し、受験生の理解と共感を拡げ、定員充足率のV字回復を目指します。地域社会との連携強化については、石巻圏域をはじめとする地域社会との連携を深めながら、教育・研究活動や学生の地域交流を通じて、震災復興や地方創生に貢献する取り組みを推進します。

学校法人専修大学は、専修大学創立150年を見据えた財務の健全化を実現するため、大学運営の効率化を推進します。令和7年度は、スマートキャンパス構想の第1段階として、AIチャットボットを活用した「デジタル窓口」を構築し、学生向けサービスの向上と事務業務の効率化を進めます。一方で、教育研究環境の変化に対応できるよう専修大学及び石巻専修大学の施設設備等の改修については、エネルギーの効率化やカーボンニュートラルに配慮しつつ計画的に進めます。

本学の21世紀ビジョンである「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」の基、伝統と歴史を次の世代へと繋ぎ、社会の変化に対応しながら、教育・研究・社会貢献の各分野で改革を進め、社会に貢献できる人材育成に取り組んでまいります。

学校法人専修大学 理事長

松木健一

# I 概要図

## 社会知性の開発 《21世紀ビジョン》

### 学校法人専修大学 中期計画(2021年度~2025年度)

#### 中期計画に連関し、本年度に取り組む事業

中期計画による年次施策

専修大学

- 1 教育力の向上
  - (1) 学士課程教育の質向上
  - (2) 新学習指導要領との接続を見据えた学士課程教育の推進
  - (3) ポストコロナ時代における新たな学びに向けた取組み
  - (4) 大学院教育の質向上
  - (5) 法科大学院教育の質向上
- 2 研究力の向上
  - (1) 競争的研究資金の獲得推進
  - (2) 競争的大型研究プロジェクトの採択推進
  - (3) 各研究所等における研究活動の活性化と知の発信
  - (4) 社会知性開発研究センターにおける研究プロジェクトの推進と国際展開
  - (5) SDGsに貢献する新たな教育研究活動への挑戦
- 3 学生活動実績の向上
  - (1) 難関国家試験等の合格者増
  - (2) 就職実績の向上
  - (3) カレッジスポーツの強化

石巻専修大学

- 1 石巻専修大学中長期ビジョンの推進
  - (1) 「石巻専修大学中長期ビジョン(第一次)」に基づく大学改革の推進
- 2 特色ある教育研究活動の推進
  - (1) 学士課程教育の改革
  - (2) 競争的研究資金の獲得促進
  - (3) 産学官連携研究の推進
- 3 入学定員充足に向けた取組強化
  - (1) 学生募集力の強化
  - (2) 就職実績の向上
  - (3) カレッジスポーツの強化
  - (4) 修学支援の強化

学校法人専修大学

- 1 財務の健全性確保
  - (1) 財務の健全性確保に向けた諸施策の推進
- 2 大学運営の強化
  - (1) 大学運営の効率化に向けた諸施策の推進
  - (2) 人材育成に係る取組みの推進
  - (3) カーボンニュートラルに向けた取組み推進

#### 本年度に取り組む基盤的な事業

基盤強化に向けた施策

専修大学

- (1) 教育活動の強化
- (2) 学生生活のサポート
- (3) 学生募集力の向上
- (4) 社会的評価を高めるための広報活動等の展開
- (5) 社会連携・社会貢献活動の推進
- (6) 校友会・育友会との連携強化

石巻専修大学

- (1) 教育研究活動の強化
- (2) 学生支援の強化
- (3) 社会連携・社会貢献活動の推進

学校法人専修大学

- (1) 大学運営に係る諸施策の推進

## II 事業計画の運用及び予算編成の基本的な考え方

学校法人専修大学事業計画は、各事業を①「中期計画による年次施策」及び②「基盤強化に向けた施策」に整理しています。

- ① 「中期計画による年次施策」は、令和3年度から始動した「学校法人専修大学中期計画（2021年度～2025年度）」における行動計画を具現化するために、当年度に実施する事業として位置付けるものです。
- ② 「基盤強化に向けた施策」は、学校法人専修大学、専修大学及び石巻専修大学の維持・発展のために、この数年間のコロナ禍で培った知見と経験を十分に活かし、『学生を基本に据えた大学』として当年度に取り組む基盤的でありながらも重要度の高い事業として位置付けています。

本法人では、この二つの施策群を事業計画の両輪として駆動させ、「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の実現を目指します。

令和7年度の事業計画は、令和3年度に始動した中期計画の最終年度となります。中期計画で掲げられた達成目標は、これまで各年度の事業計画に基づき実行されてきました。また、予算編成については、創立150年を見据え、財務基盤の一層の強化に取り組む必要があることから、業務の合理化を進め、経費削減と予算効率化により事業活動収支差額比率3.5%超の達成を目標としています。

## III 中期計画による年次施策

### 専修大学

#### I 教育力の向上

##### (1) 学士課程教育の質向上

専修大学は、21世紀ビジョン「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の具現化に向けて、研究に裏付けされた確かな教育力で、更なる教育の質向上を推進します。本学は、これまで学士課程教育の質向上に向け、三つの方針<sup>1)</sup>の改正やカリキュラム・マップの作成、アセスメントプランの策定、令和8年度入学者を対象としたカリキュラム改正の検討等に取り組んできました。令和7年度は、カリキュラム改正に伴う、より具体的な準備、検討等を進めると共に、諸手続きを進めます。

さらに、「Society 5.0」に向けた人材育成として推進している「Si データサイエンス教育プログラム」については、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に全ての学部で認定を受けており、令和7年度以降は、「Si データサイエンス教育プログラム」の定着と一層の発展(応用基礎レベルプラスへのチャレンジ)のため、「数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」が中心となり、カリキュラム改正に合わせた開講科目の対応等を進めます。

##### (2) 新学習指導要領との接続を見据えた学士課程教育の推進

専修大学は、「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の具現化を念頭に、新学習指導要領との接続を見据えた新カリキュラムの策定を進めます。令和7年度は、前述の「学士課程教育の質向上」にて記載した新カリキュラムの検討において、分野横断的な内容やSTEAM教育等に関連する内容を取り扱う授業科目とするため、「内部質保証推進委員会三つの方針(学士課程)検証ワーキンググループ」と「全学カリキュラム協議会議長・共同座長」による「合同ワーキンググループ」にて検討を進めます。さらに、グローバル人材育成を強化するため、新カリキュラムにおける、SiU インターナショナルプログラム、東南アジア・スタディツアーの単位化に加え、その他の単位認定がなされる留学制度の導入に向けて協議を進めます。

##### (3) ポストコロナ時代における新たな学びに向けた取り組み

専修大学は、学修者本位の学びの実現に向けて、情報通信技術がもたらす価値を活用した新時代の学びの仕組みを推進し、個々の学生の学びの深化を図ります。令和7年度は、スマートキャンパス構想の一環であり、令和6年度に本格的に運用が開始された仮想デスクトップ基盤(VDI: Virtual Desktop Infrastructure)が一層利活用されるように、学修環境基盤の整備や運用の定着を進めます。

また、過去3年間にわたりタイ商工会議所大学で実施した「東南アジア・スタディツアー」を基に、新カリキュラムに合わせて、ラオス国立大学において新たな「スタディツアー」のコースを開設する準備を進めます。

<sup>1)</sup> 「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」及び「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」

(4) 大学院教育の質向上

専修大学大学院は、魅力ある大学院教育を推進するため、産業界や国際社会も含めた幅広い社会の要請、学修者個々の知識やスキルの修得、リカレント教育（社会人の学び直し）等のニーズに積極的に対応する大学院教育の改革を推進します。令和7年度は、内部質保証推進委員会大学院部会を定期的に開催し、現行カリキュラムのCP・DP・APの再検証とカリキュラム・マップの検討を行います。

さらに、各研究科における開講科目と履修状況の確認を行い、現状を含めた過去数年分の履修状況を大学院改革検討委員会に提示し、検証・分析を行い質保証の向上を目指します。

(5) 法科大学院教育の質向上

専修大学法科大学院は、令和4年度の日弁連法務研究財団の法科大学院評価（認証評価）結果の指摘事項を踏まえ、本法科大学院が独自に作成した指摘事項管理表を用いて進捗状況の確認と課題に対する対応を進め、次回の認証評価で同様の指摘がなされないように問題解決を図ります。

さらに、未修者1年次生の中退率が高いことや、勉学に対する姿勢や熱意を有する入学者の確保を目的とした入学者選抜の在り方についても引き続き議論を行います。既修者の入試については、法曹コース出身者向け入試の運用面の問題改善を図り、従来入試に関しても省力化を検討します。

文部科学省による「法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」に基づき、新たに策定された指標に対応するための対策を行います。特に司法試験の累積合格率や入学者選抜の競争倍率などの指標に対する対策を進め、令和8年度以降のコンピューターを用いた試験実施（CBT方式）に向けた教育体制を構築します。

【表1 司法試験合格に関する目標値】

司法試験合格率・合格者数	当該年度の司法試験合格率3割以上かつ10名以上の合格者数
--------------	------------------------------

2 研究力の向上

(1) 競争的研究資金の獲得推進

専修大学は、科学研究費助成事業（科研費）の採択件数・採択率の向上により、本学研究者の研究力の更なる向上と社会への研究成果の発信を強化します。

令和7年度は、研究計画調書の推敲プロセスの見直しを図り、応募書類の質の向上と教員の負担軽減を図ります。この取組みを通して、令和7年度に審査が行われる令和8年度科研費新規採択率40%の達成を目指します。

(2) 競争的大型研究プロジェクトの採択推進

専修大学は、社会知性開発研究センターを中心として、国際社会に対応し得る学術・文化の幅広い分野における専門的、学際的な総合研究・教育活動を推進します。

令和7年度は、学内の研究支援体制の強化を図りつつ、公的機関が募集する競争的大型研究プロジェクトへの採択を目指します。

(3) 各研究所等における研究活動の活性化と知の発信

専修大学は、社会に開かれた大学を目指し、各研究所等により創出される優れた研究成果を社会に対して発信します。さらに産学官連携による研究及び企業や外部研究機関等から個人・共同または各研究所等へ委託される受託研究の活性化も推進します。

令和7年度は、各研究所による研究成果等の社会への発信強化を図るとともに、学外の研究資金について、教員への情報提供の向上を図ります。

(4) 社会知性開発研究センターにおける研究プロジェクトの推進と国際展開

専修大学は、社会知性開発研究センターを拠点として若手研究者の育成に努めるとともに、専門的、学際的な総合研究・教育活動を推進します。

令和7年度は、四川・ローカルリスクコミュニケーション研究センターにおいて、「減災サイクル」というコンセプトに基づき、過去の災害から学んだ教訓を活かして、長期的復興を目指した新たな防災システムを考案する研究を継続します。

また、複式簿記普及事業推進研究センター（ラオス国内における簿記教育の発展・普及ーラオ語による簿記テキストの開発と簿記検定試験の実施支援ー）が、ラオス国内で簿記検定試験を実施すると共に、ラオ語による簿記試験問題の作成及び簿記テキストの作成を支援します。

【表2 研究センター及び研究テーマ等の一覧】

研究センター名	四川・ローカルリスクコミュニケーション研究センター
研究プロジェクト名	ローカル・コミュニティにおける減災サイクルの研究 ー長期的復興における'新しい日常'の実相をとらえるIVー
研究センター名	複式簿記普及事業推進研究センター
研究プロジェクト名	ラオス国内における簿記教育の発展・普及 ーラオ語による簿記テキストの開発と簿記検定試験の実施支援ー

(5) SDGs に貢献する新たな教育研究活動への挑戦

専修大学は、社会知性開発大学の使命の一つとして、大学組織、学生、産学官協働さらには地域の各レベルにおいて、SDGs への貢献や「Society 5.0」時代に求められる人材育成につながる新たな教育研究活動を推進していきます。

令和7年度は、持続可能な開発目標（SDGs）推進委員会を中心に、「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加する大学として、法人と大学が一体となり、教育研究・社会貢献活動を通して、キャンパス、地域、人材育成に関わるミッションへの実質的な取組みを推進します。また、学内における SDGs に対する関心を高める取組みの一環として実施している「専修大学 SDGs チャレンジプログラム」についても、SDGs17 の目標から1つテーマを決め、目標の達成に寄与するアクションプランの募集を行います。

3 学生活動実績の向上

(1) 難関国家試験等の合格者増

専修大学は、学生の自己実現を強力にサポートするため、多様な課外講座を開設し、一人ひとりの学生の可能性を広げます。とりわけ、難関試験である公認会計士試験や国家公務員採用総合職試験は前年度の合格者数を上回る合格者を輩出できるよう学生指導に注力するとともに、各種の公務員採用試験についても、これまでの実績を基盤としつつ、合格者数及び合格率の向上を目指します。

令和7年度における各種試験の目標値は表3のとおりです。

【表3 各種試験の目標値】

公認会計士試験最終合格者	30名以上
国家公務員採用総合職試験最終合格者	30名以上
国家公務員採用一般職試験最終合格者	80名以上
国家公務員採用専門職試験最終合格者	80名以上
地方公務員採用上級職試験※最終合格者	200名以上
教員採用試験最終合格率	講座受講者の最終合格率3割以上

※地方公務員採用上級職試験は、都道府県・政令指定都市・特別区・市の「大学卒業程度」の採用試験区分

## (2) 就職実績の向上

専修大学は、学生一人ひとりの多様な価値観を尊重し、低年次からキャリアを意識した学生生活を送れるよう積極的に支援しています。社会の変化に伴い採用形態が多様化していることや、学生の起業意欲の高まりなどを踏まえ、複線的な進路支援を展開することで、学生が納得のいく進路選択を実現できるよう努めています。

令和7年度は、外資系企業や海外展開する日本企業への就職を目指す学生を支援する「グローバルキャリア・サポートプログラム」の定着と、プログラム参加学生のグローバル企業へのチャレンジを支援します。さらに、地方自治体との連携によるインターンシップ・就職支援プログラムを実施し、UIターン就職を希望する学生を支援します。

また、「問題解決型チャレンジプログラム」「ベンチャービジネスプログラム」「フューチャーデザインプログラム」「キャリア探索型プログラム」を展開し、ビジネスの現場での就業体験をはじめとするキャリア支援プログラムの充実を図ります。

## (3) カレッジスポーツの強化

専修大学は、体育会学生の競技力向上を支援するとともに、学業と競技の両立、さらにはキャリア支援を含めた一体的支援体制の強化を図ることで、カレッジスポーツとしての本学体育会の価値向上に努めます。

令和7年度新入生には、体育会新入生セミナーを通じて体育会学生としての責任と自覚を促し、2年次生については、ガイダンスを開催し、今後の競技と学業との両立に向けた取組み等を提示します。さらに、単位の修得状況に応じて個別面談による修学に関するアドバイスを行うなど、競技と学業の両立をサポートします。

また、強化選手等に選出された学生への支援を充実させることで、国際試合やFISUワールドユニバーシティゲームズへの参加者数を増加させ、オリンピック出場選手の輩出を目指します。

さらに、野球部・陸上競技部・ラグビー部については、表4に掲げる目標達成を目指し、重点的な支援を行います。

【表4 令和7年度野球部・陸上競技部・ラグビー部の目標】

野球部	東都大学野球 二部優勝・一部リーグ復帰
陸上競技部	箱根駅伝 本選出場・シード権獲得（本戦10位以内）
ラグビー部	関東大学リーグ 二部優勝・一部復帰

## 石巻専修大学

### 1 石巻専修大学中長期ビジョンの推進

#### (1) 「石巻専修大学中長期ビジョン」<sup>2</sup>に基づく大学改革の推進

石巻専修大学は、「石巻専修大学第2次中長期ビジョン」（2025年度～2029年度）に基づく大学改革を推進するとともに、令和2年度受審の認証評価における指摘事項を踏まえて、内部質保証の取組み及び自己点検・評価活動を推進します。

令和7年度は、表5の第2次中長期ビジョンで定めた行動目標及び行動計画に基づき学内各機関において個々の行動計画・目標及びロードマップを作成し、目標達成に向け諸施策を実行します。

また、令和9年に受審予定の大学基準協会の認証評価に向けて、第4期認証評価項目に応じた取り組み状況の点検等を進めます。

【表5 第2次中長期ビジョンの行動目標】

①	学生支援の強化による学生生活実績の向上（活気あるキャンパスづくり）
②	地域連携による社会実装と地域教育の強化
③	社会実践教育の全学的な拡充
④	収容定員充足に向けた教学改革と入試改革の一体的な推進
⑤	少子化を乗り切る魅力ある教育組織の新編
⑥	教職協働の実現に基づく大学改革の推進
⑦	財務の健全化に向けた対応

<sup>2</sup> 石巻専修大学が創立30周年を迎えた年に策定された、今後10年を見据えた教育研究活動のビジョンです。本ビジョンは、令和元年度に策定された第1次中長期ビジョン（2020～2024年度）と令和6年度に策定された第2次中長期ビジョン（2025～2029年度）で構成されます。

## 2 特色ある教育研究活動の推進

### (1) 学士課程教育の改革

石巻専修大学は、「地域に根ざして世界に尖った大学」を具現化すべく、理工・経営・人間の3学部を基盤とした多様な学問領域を有する総合大学の特色を活かし、文理横断型の教育研究活動を推進します。令和7年度には、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）認定制度」の申請を行います。また、令和8年度入学者から適用する新カリキュラムに対する具体的な準備を進めます。

### (2) 競争的研究資金の獲得促進

石巻専修大学は、科学研究費助成事業（科研費）をはじめとする競争的研究資金の獲得を促進するとともに、研究倫理や社会的責任を踏まえた研究活動を推進するための環境基盤を整備します。令和7年度には、専任教員に対して、日本の研究者情報を収集・公開する国内最大級の研究者総覧データベースである「researchmap」への新規登録および更新を促し、本学の研究者情報システムと「researchmap」のデータ連携を推進します。また、科研費については、研究計画調書のピアレビューの充実を図り、新規採択件数の向上を目指します。

### (3) 産学官連携研究の推進

石巻専修大学は、地域を支える知の拠点として、大学開放センターや共創研究センターを中心に、研究活動によって創出された成果を地域の産業振興に資する連携事業に発展させ、地方創生やSDGsに貢献していきます。令和7年度には、中長期ビジョンで掲げた行動目標「地域連携による社会実装と地域教育の強化」に資する取り組みを促進するため、学外ニーズの調査を進め、令和8年度の実施に向けた新しい企画を試行的に立案し実現可能性を検証します。

## 3 入学定員充足に向けた取組強化

### (1) 学生募集力の強化

石巻専修大学は、入学定員充足率のV字回復に向けて、次の六つの柱を立てて積極的な学生募集活動及び広報活動を展開します。

- ① 「石巻」で学ぶ意義や魅力の深化
- ② 教員・在学生を活用した情報拡充
- ③ 志望度の高い受験生との関係性強化
- ④ 接触者との交流強化によるオープンキャンパス参加率・出願率の向上
- ⑤ 新たな入試制度を浸透させる広報
- ⑥ 東京エリアを含む新規市場の拡充

また、オープンキャンパスについては参加者を増やし、かつ参加者の満足度を上げるため、日程の増加や開催時期に応じたプログラム内容とするなどの改善を図り、一人でも多くの入学者の獲得を目指します。

### (2) 就職実績の向上

石巻専修大学は、「就職率100%」を目指した就職相談や学生への各種情報提供等を推進するとともに、専修大学のノウハウ等を活用した資格取得指導の強化を図り、学生一人ひとりが希望する進路選択の実現を目指します。

令和7年度に取り組む支援策は次のとおりです。

- ① 3年次生全員を対象として、インターンシップへの参加を支援します。
- ② 4年次生の進路未決定者を対象として、個別面談による就職・進路支援を実施します。
- ③ ゼミナール及び研究室指導教員を通じた就職状況調査を年4回実施して、学生の就職・進路状況の情報共有し、連携を強化します。

### (3) カレッジスポーツの強化

石巻専修大学は、各サークル代表との意見交換・情報共有に基づくサポートの適正かつ迅速な実施及び強化指定サークル（硬式野球部、女子競走部、弓道部、サッカー部）の全国大会出場に向けた部活動の支援を通じて、カレッジスポーツを活かしたキャンパスの活性化を図ります。

令和7年度に取り組む支援策は次のとおりです。

- ① 大学とサークルとのコミュニケーションの場（代表者会議など）の活性化を図り、活動環境の整備・改善を支援します。
- ② サークル内でのSNSの利用方法、薬物使用、ハラスメントなどについても適宜注意喚起を行い、健全なサークル活動を支援します。
- ③ 強化指定サークルの全国大会出場に向けた重点的な支援を行います。

#### (4) 修学支援の強化

石巻専修大学は、これまで学生と教職員とのコミュニケーションを充実させることにより、学生生活状況の確認や学修の動機付けを行ってきました。「学生第一主義<sup>3</sup>」に基づく学生と教職員の対話による修学支援策を継続し、学生の満足度向上に取り組むとともに、退学者数の抑制を図ります。

令和7年度の取り組みは次のとおりです。

- ① 令和6年度の面談結果の効果を検証し、令和7年度の学生対応に活用します。
- ② 前期期間中、1年次生を対象に教員が学生と向き合う時間（オフィスアワー等）を設け、教員と学生のコミュニケーションの充実を図ります。
- ③ 修得単位数とGPAの数値等から、サポートが必要と考えられる学生に対して、教員が面談により、修学に関する指導・助言を行います（前期は2年次以上の学生、後期は全学生が対象）。

### 学校法人専修大学

#### 1 財務の健全性確保

##### (1) 財務の健全性確保に向けた諸施策の推進

学校法人専修大学は、専修大学創立150年を見据えた財務の健全化に向けて、中期計画（2021～2025年度）に掲げた財務比率等の目標値（事業活動収入、人件費依存率、管理経費比率、事業活動収支差額比率）の達成を目指しています。

令和7年度は、財務の健全化に向けて、全学的な業務の効率化や予算の効果的な配分及び次の5項目施策を推進します。一方で、教育研究環境の変化に対応できるよう専修大学及び石巻専修大学にある老朽化が著しい施設設備等の改修を計画的に進めます。

- ① スマートキャンパス構想の実現など、大学のデジタルトランスフォーメーションを推進し、学生向けサービスの向上や事務業務の効率化を目指します。
- ② 施設設備の整備に関しては、優先順位をつけ計画的に進めます。
- ③ エネルギーの効率化を目指すため、照明器具のLED化及び省エネルギー機器の積極的な導入を進めます。また、電気料金の高騰による経費負担を軽減するため、節電の徹底を図ります。
- ④ 第2号基本金や施設設備準備のための資金の繰入を計画どおりに実行します。
- ⑤ 石巻専修大学の収支の改善を図るため、収容定員の充足を目指し、学生募集を重点的に強化します。

#### 2 大学運営の強化

##### (1) 大学運営の効率化に向けた諸施策の推進

学校法人専修大学は、将来の成長と競争力強化のため、「Society 5.0」時代に求められる人工知能(AI)やIoT(Internet of Things)などの最新技術を活用した大学づくりを目指します。その実現に向けて、業務生産性の向上を図るため、各事務業務の棚卸しや業務プロセスの見直しを進めます。

令和7年度には、スマートキャンパス構想の短期的なゴールの一つである学生支援窓口のワンストップ化をデジタルで実現するため、「AIチャットボット(AIを利用した自動会話プログラム)」による24時間365日対応可能な“デジタル窓口”を構築し、学生の利便性向上と窓口業務の負担軽減を目指します。また、教育データの集約化により、学生個人に個別最適化した教育の精緻化と高度化を実現し、教育改革・改善、学生サービスの向上及び業務の効率化を図るためのより具体的な検討を進めます。

加えて、令和6年度に導入したワークフローシステムの利活用を一層促進すると共に、本法人における押印の廃止等に関する基準を策定し、現在慣行的に行われている書類への押印を不要とすることで、法人・大学全体の文書作成業務の効率化を促進します。

また、業務システムについては、人事・給与計算システムや旅費・交通費精算システムの導入に向けた検討を進めます。

<sup>3</sup> 石巻専修大学の大学運営の基本方針のことです。

## (2) 人材育成に係る取組みの推進

学校法人専修大学は、本法人が定める人材育成方針（令和2年9月策定）に基づき、各種研修制度の見直しを進めると共に、スタッフ・ディベロップメント（SD）研修の体系化も進めてきました。また、令和6年度には、人材育成方針の実現に向けて、「スタッフ・ディベロップメント計画表」を作成すると共に、新規導入したeラーニングシステムにて受講を必須とする研修、推奨する研修を明示し、全職員に受講を促しました。

令和7年度は、同計画表に則った研修制度を実施すると共に、同システムの利用促進を図ります。

## (3) カーボンニュートラルに向けた取組み推進

学校法人専修大学は、社会知性開発大学の使命の一つとして、カーボンニュートラルの達成に向けた様々な取組みを推進していきます。前年度には、各校舎のエネルギー使用量の可視化に加え、照明器具のLED器具への更新等を通じて、両キャンパスで省エネルギーを推進しました。

令和7年度も省エネルギー推進委員会より、学内の各所に省エネルギーへの協力要請を行って節電を推進するとともに、本年度に予定されている各校舎等の改修工事にあたっては、省エネルギー機器を積極的に選定することで、カーボンニュートラルに結び付けていきます。

さらに、専修大学持続可能な開発目標（SDGs）推進委員会を中心に、引き続き専修大学キャンパスのカーボンニュートラル実現に向けた選択肢の検討を進めます。

# IV 基盤強化に向けた施策

## 専修大学

### (1) 教育活動の強化

専修大学は、教育活動の水準を維持・向上するための取組みや、それを支える環境整備を次のとおり推進します。

- ① 国際コミュニケーション学部の新たな教育的特色を遂行するための環境の整備
- ② 留学プログラム（学生派遣・受入れ）の活性化
- ③ 高等学校（高大連携協定校・教育交流提携校・付属校）との連携事業の推進
- ④ 神田・生田キャンパスの視聴覚設備の更新

### (2) 学生生活のサポート

専修大学は、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に、すべての学生が安心安全で充実したキャンパスライフを送るための環境を次のとおり整備します。

- ① TOEIC®講座の更なる充実
- ② 飲酒事故防止・薬物乱用防止に関する啓発活動の実施
- ③ 防災教育推進活動の強化
- ④ キャンパス・ハラスメント防止の啓発活動推進
- ⑤ 学生相談室における支援の充実
- ⑥ 障がい学生支援室における支援の充実
- ⑦ 学生によるSDGs貢献活動の場の提供・サポート

### (3) 学生募集力の向上

専修大学は、教育目標の「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」に向けた教育を行うために、本学の入学者受入れの方針に示す能力を有する入学志願者を広く全国から募るべく、積極的な学生募集広報活動を展開します。

対面的な学生募集広報活動においては、全国47都道府県を対象としつつも、入学試験会場設置地域などの重点地域を中心に、進学相談会、高校訪問、大学説明会、出張授業等を積極的に展開すると共に、オープンキャンパスを複数回実施するなど、より多くの受験生等に直接、本学の特色や強みを説明し、併せて進学に向けた様々な不安や疑問に答えることで、志望度の向上を促します。加えて、DM・チラシ送付のほか、WebやSNS（LINE、X、Instagram）での情報発信、YouTubeの入学センター公式チャンネルへの動画配信など、メディアを活用した広報活動にも注力し、より多くの受験生に本学の魅力や令和8年度入試制度等のアピールを行います。

また、近年成果が顕著な難関国家資格・公務員採用試験に対する指導等についても積極的に説明することで、資格取得や公務員を目指す志願者の掘り起こしに努めます。

(4) 社会的評価を高めるための広報活動等の展開

専修大学は、社会からより評価される大学を目指して、本学の諸活動を広く学内外に発信する広報体制等の強化を図り、社会やステークホルダーに対して積極的な広報活動等を展開します。

- ① Web サイト及び公式 SNS による情報発信の強化
- ② ニュースリリースの積極的な発信とマスコミ等情報機関との連携構築
- ③ 今村カ三郎文庫のアーカイブズ構築
- ④ 専修大学の歴史を紹介する企画展の開催

(5) 社会連携・社会貢献活動の推進

専修大学は、教育研究活動等によって創出される知を積極的に社会に対して発信するとともに、企業・自治体等との連携事業やボランティア活動を推進します。

- ① KS パートナーシップ・プログラム（川崎市と専修大学が連携・協力して実施する事業）の推進
- ② 川崎市教育委員会連携事業〈ワンデーチームメイト・公開講座〉の開催
- ③ 伊勢原市との連携事業の推進
- ④ 多摩区・3 大学連携事業の推進
- ⑤ 川崎商工会議所との連携事業の推進
- ⑥ 小田急株式会社との連携事業の推進
- ⑦ 神奈川経済同友会との連携事業の推進
- ⑧ 2025 専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会の開催
- ⑨ 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの各種連携事業への参画
- ⑩ 千代田区との連携強化

(6) 校友会・育友会との連携強化

専修大学は、社会のあらゆる分野で活躍する校友会会員（卒業生）や育友会員（保護者）と連携・協力し、校友会活動及び育友会活動の更なる発展・活性化を支援します。令和 7 年度に実施する各種事業は次のとおりです。

- ① 校友会本部主催の各種事業への協力
- ② 校友会による大学各種募金への協賛キャンペーンの協働
- ③ 育友会主催の支部懇談会（全国 67 支部、62 会場）の開催支援
- ④ 育友会主催の学内施設見学会の開催支援
- ⑤ 育友会主催の就職懇談会の開催支援

## 石巻専修大学

(1) 教育研究活動の強化

石巻専修大学は、教育研究活動の水準を維持・向上するための取組みや、それを支える環境整備を次のとおり推進します。

- ① グローカルな双方向の国際連携
- ② 計画に基づく施設設備の整備

(2) 学生支援の強化

石巻専修大学は、「学生第一主義」を念頭に、すべての学生の可能性を伸長するための取組みを次のとおり推進します。

- ① 図書館資源の利用促進・図書館を活用した地域との交流イベント開催
- ② 障がい学生等への支援の充実
- ③ 資格取得支援の強化

(3) 社会連携・社会貢献活動の推進

石巻専修大学は、石巻圏域を中心とした協定自治体等との連携を図り、石巻川開き祭り等を通して学生が大学での学びを活かして地域の方々と交流しながら、地域社会の発展に積極的に貢献できるようサポートします。

(1) 大学運営に係る諸施策の推進

学校法人専修大学は、ステークホルダーの期待に応え信頼を確立するために、教職員一人ひとりがコンプライアンスの重要性を認識し、「自分ごと」として自律的・能動的に大学運営に取り組み、それぞれの役割・責任を果たす体制整備（組織づくり）を進めます。

- ① 中期計画（2026年度～2030年度）の策定
- ② 情報セキュリティポリシーの定着
- ③ 創立150周年に向けた記念事業構想の検討
- ④ 職員の柔軟な働き方の推進
- ⑤ 知的財産の法的処理に関する制度の整備
- ⑥ 私立学校法の改正に伴う新たな寄附行為の施行と円滑な遂行
- ⑦ ガバナンスコードの遵守及び遵守状況の公表



Devoted to the Development  
of Socio-Intelligence

**SENSHU**  
**UNIVERSITY**